

## 農・林業集落アンケートによるサルの生息動向等について

本レポートは、平成22年度緊急雇用事業で実施した野生鳥獣の農業・林業集落アンケート調査結果と平成20・21年度に森林保全課(森林整備課)が自然環境研究センターに委託して実施した野生鳥獣の農業・林業集落アンケート調査の結果に基づくものである。アンケート調査であること、現地調査を実施していないことから、あくまで奈良県の傾向・トレンドを把握するものとなる。

なお、調査年度については平成20年度には前年度、つまり平成19年度の内容を、平成21年度には平成20年度の、平成22年度には平成21年度の内容を問うた。

### ○平成21年度のサルの生息状況

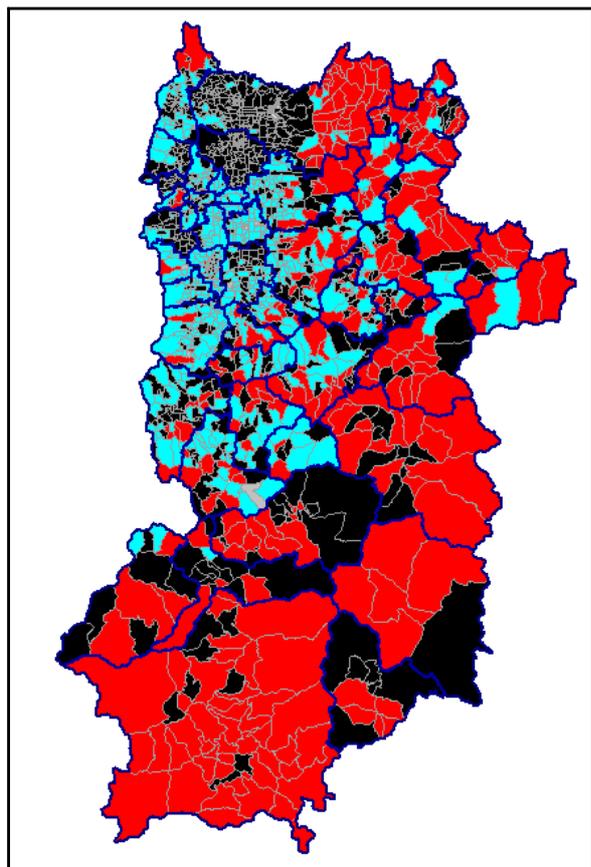


図 サルの分布

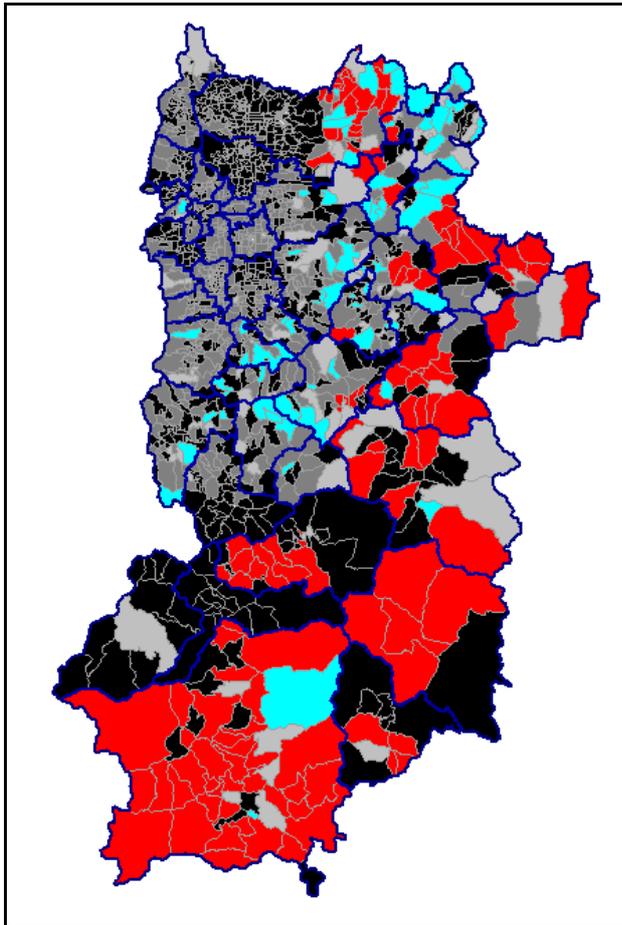
右図は、平成21年度の農林業集落アンケート調査による、サルの分布である。

農業集落、林業集落のいずれかでサルが「いる」と回答があった場合に「いる」とした。回収無しには、過疎化によって、既に人が住んでいない集落も含まれる。

サルが「いる」との回答は、県内の広範囲から得られた。ただし、これらの回答には、オス個体が他の群れに移動する途中の、いわゆる「離れザル」が出没した場合も、サルがいると回答しているものもあると考えられる。したがって、現実的なサルの分布は、後述する群れの有無についての設問によるべきである。

いる	308集落
いない	506集落
無回答	6集落
無回収	988集落
全	1808集落

凡例 図中 青線 市町村界 市町村界内側の線 大字・地区界  
なお、この市町村界、大字・地区界の凡例は次項以降の図も同様である

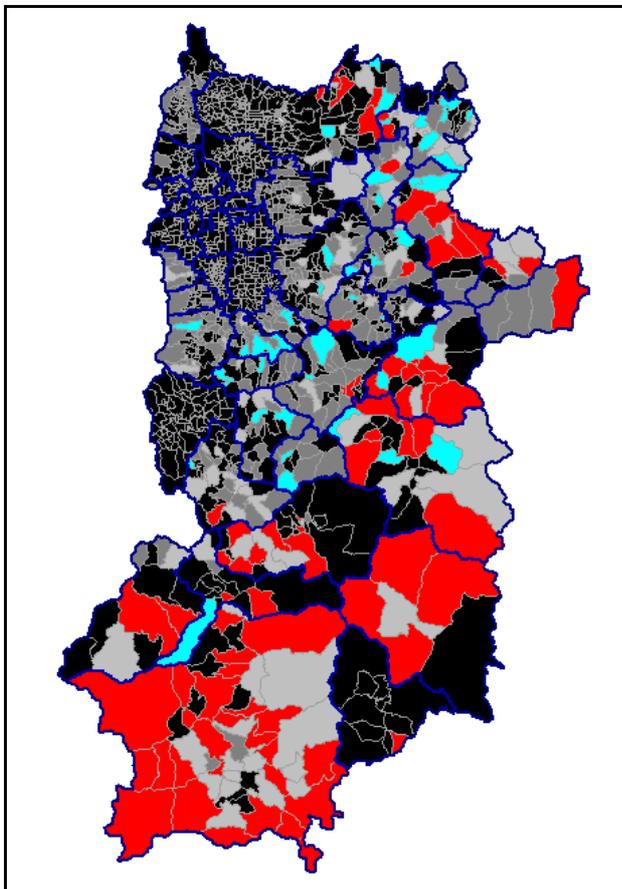


**図 農地・集落周辺におけるサルの群れの有無**

右図は平成21年度の農業集落アンケートによる、サルの群れの農地・集落周辺における有無である。

県北部・県北東部から県東部・県南部の吉野郡にかけて、群れが存在すると回答があった。一方で県北西部、県西部からは群れが存在するのと回答は無かった。

有	125集落
無	69集落
回答無	90集落
分布無	498集落
無回答	1026集落
全	1808集落



**図 山林・奥地森林におけるサルの群れの有無**

右図は平成21年度の林業集落アンケートによる、サルの群れの山林・奥地森林における有無である。

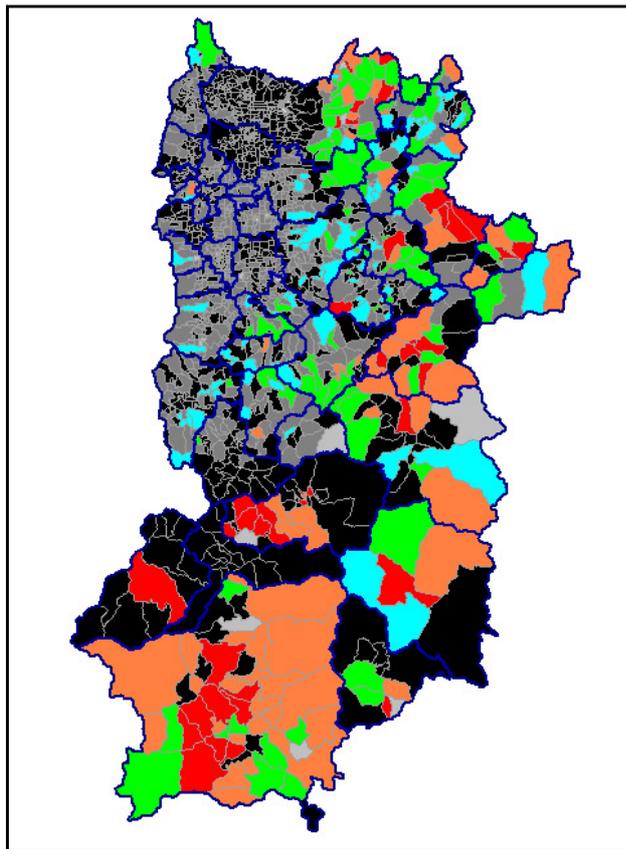
農地・集落周辺における群れの有無と大凡同じ地域から、群れが存在すると回答があった。

有	80集落
無	40集落
回答無	94集落
分布無	276集落
無回答	1318集落
全	1808集落

農業アンケート及び林業アンケートより、県北部の奈良市柳生周辺、県北東部の宇陀市、宇陀郡周辺から、県南部地域一帯の吉野郡にサルの群れが存在すると思われる。その他の地域では、離れザルが出没しているものと思われる。

なお、県内に群れが何群存在するかはアンケート調査だけでは把握できない。現地調査を実施しなければ、正確な回答は得られない。

## ○平成21年度のサルの被害



### ・農業被害の大きさ

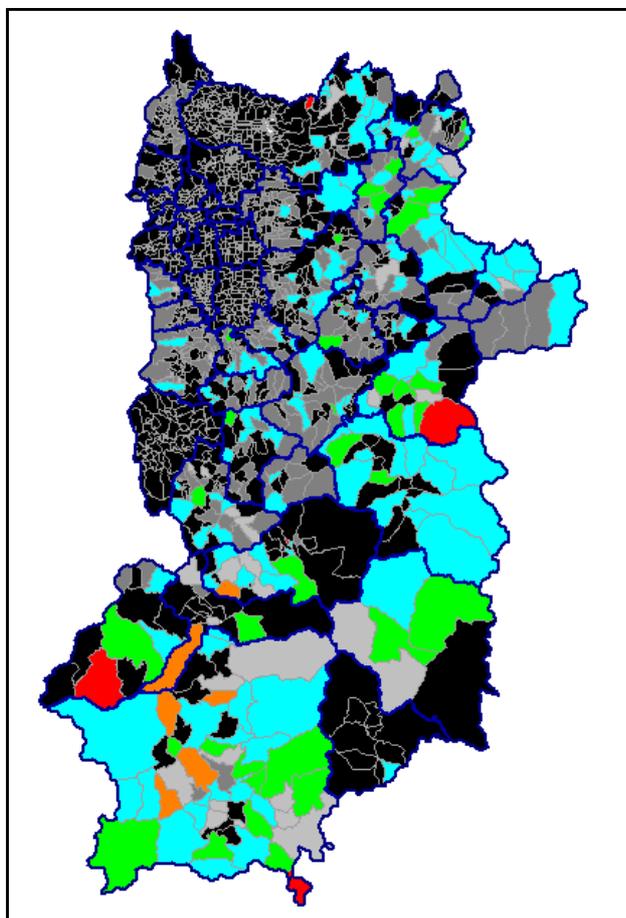
右図は平成21度における農業集落アンケートによる、農業被害の大きさの意識調査の結果である。

サルが分布すると回答があり、かつ農業被害の大きさについて回答のあった268集落の内訳は下記の通りである。

被害が「深刻」との回答は約15%、被害が「大きい」との回答は約25%を占めていた。

被害が「大きい」、又は「深刻」と回答があった地域は、サルの群れが存在すると回答のあった地域と大凡一致していた。これは、群れから離れたサルが単独で加害する場合は、被害は大きくならないが、サルが群れて農地に現れた場合、各農作物の被害が大きくなるためであると考えられる。

ほとんど無い	73集落 (27.2%)
軽微	88集落 (32.8%)
大きい(生産量の30%未満)	67集落 (25.0%)
深刻(生産量の30%以上)	40集落 (14.9%)
計	268集落



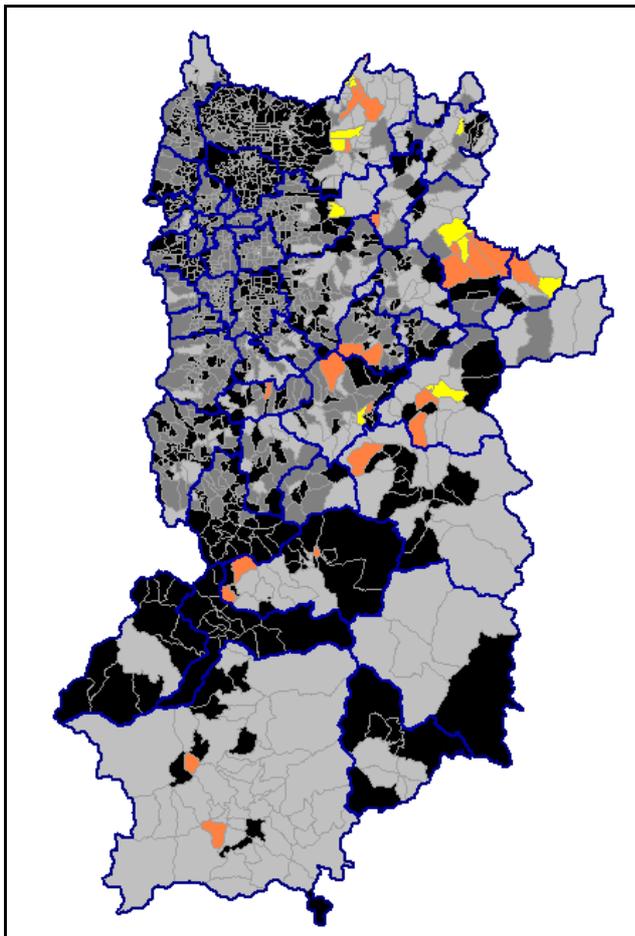
### ・林業被害の大きさ

右図は平成21度における林業集落アンケートによる、林業被害の大きさの意識調査の結果である。

サルが分布すると回答があり、かつ農業被害の大きさについて回答のあった182集落の内訳は下記の通りである。

回答は、「ほとんど無い」が最も多く約73%を占めており、「大きい」又は「深刻」は併せて約6%であった。サルによる林業被害については、別途設問において、被害形態を問うたが、具体的に造林木の折損被害等の回答があったのは、わずか8集落からのみであった。奈良県ではサルによる林業被害は、殆ど発生せず、極局所的に発生しているものと考えられる。

ほとんど無い	133集落 (73.1%)
軽微	38集落 (20.9%)
大きい(生産量の30%未満)	6集落 (3.3%)
深刻(生産量の30%未満)	5集落 (2.7%)
計	182集落



### ・農地・集落周辺での人的被害

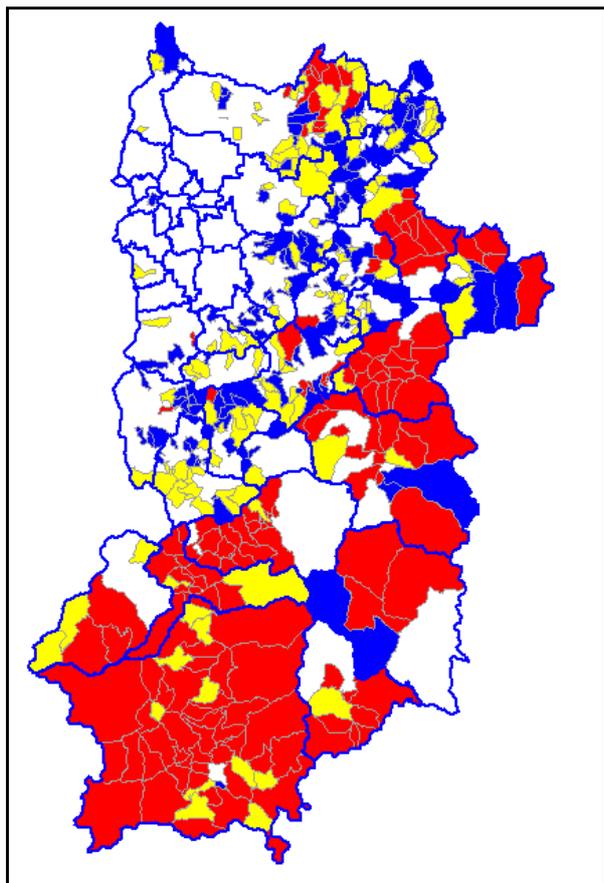
右図は平成21度における農業集落アンケートによる、サルの農地・集落周辺での人的被害の調査結果である。

人的被害は、35集落から回答があった。その内訳を下記の通りである。なお、住居侵入や器物破損と人を威嚇・襲うと両方回答があった場合は、人を威嚇・襲うに含めた。

住居侵入や器物破損	12集落
人を威嚇・襲う	23集落
計	35集落

人的被害は、サルの群れが存在する、県北部から県東部で多く発生していた。しかし、サルの群れが広範囲に存在している県南部ではあまり発生していなかった。

## ○農業アンケートによるサルの被害意識の増減について



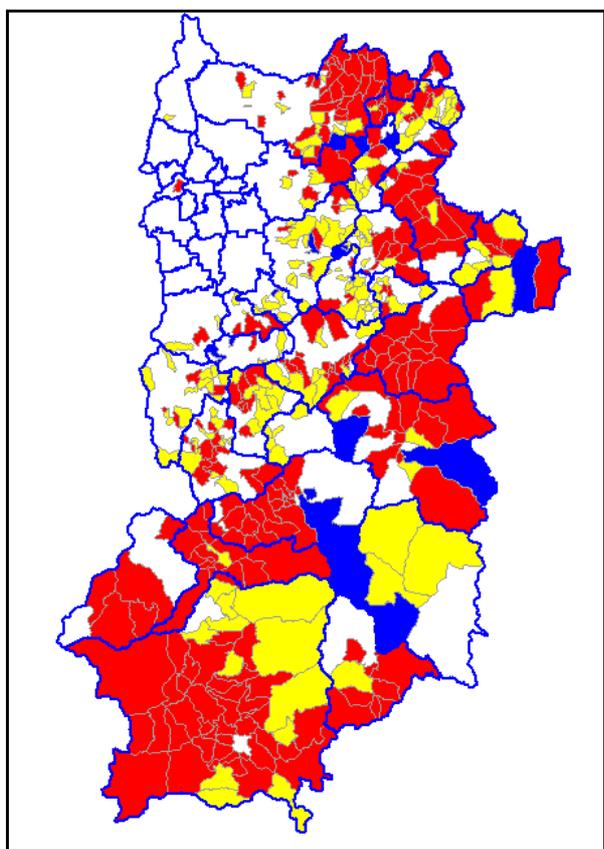
### ・農地・集落周辺への出没動向

右図は、サルの農地・集落周辺への出没の3年間の動向である。

毎年集落毎に農地・集落周辺へのサルの出没を1. よく見る、2. たまに見る、3. あまり見ないの区分で回答を得ている。そして、「よく見る」を+1、「たまに見る」を±0、「あまり見ない」を-1とポイント化し、それを集落毎に合計した。3年間の合計が、プラスになる場合（つまり、よく見るが多い場合）は赤色で、0になる場合（つまり、たまに見るが多い場合）は黄色で、マイナスになる場合（あまり見ないが多い場合）は青色で各集落を色分けした。合計は、3年間で1度でも回答があった場合を集計した。空白は調査した3年間、サルがいない、無回答、もしくは集落に人が住んでいないのいずれかである。

サルの農地・集落周辺への出没動向は、サルの群れが存在すると回答があった地域で、「よく見る」傾向にあった。なお、回答を得た集落のうち「よく見る」、「たまに見る」、「あまり見ない」の割合はほぼ同じであった。

<span style="color: red;">■</span> よく見る	152集落 (35.6%)
<span style="color: yellow;">■</span> たまに見る	134集落 (31.4%)
<span style="color: blue;">■</span> あまり見ない	141集落 (33.0%)
計	427集落



### ・農業被害の動向

右図は、サルによる農業被害の増減意識の3年間の動向である。

毎年集落毎に農業被害が前年度より1. 増えた、2. 変わらない、3. 減ったの区分で回答を得ている。そして、「増えた」を+1、「変わらない」を±0、「減った」を-1とポイント化し、それを集落毎に合計した。3年間の合計がプラスになる場合（つまり、増えているが多い場合）は赤色で、0になる場合（つまり、変わらないが多い場合）は黄色で、マイナスになる場合（つまり、減ったが多い場合）は青色で各集落を色分けした。合計は、3年間で1度でも回答があった場合を集計した。空白は調査した3年間、サルがいない、回答がない、集落に人が住んでいないのいずれかである。

サルによる農業被害の意識は、ごく一部では減ったとなっているが、県全体で増える傾向にあり、回答の60%近くが増えたとなっていた。また、群れが存在しない地域でも増えたと回答しているが、これらの地域の被害の大きさは、ほとんど無いか軽微である。離れザルが被害を発生させることが多くなったものと考えられる。

<span style="color: red;">■</span> 増えた	245集落 (58.8%)
<span style="color: yellow;">■</span> 変わらない	157集落 (37.6%)
<span style="color: blue;">■</span> 減った	15集落 (3.6%)
計	417集落